

JR西労組

WEST UNION

中国JRバス地方本部

JR B

創造 参加 実践

ニュース

西日本旅客鉄道労働組合

中国JRバス地方本部

(JR西労組 中国バス地本)

〒736-0082 広島市安芸区船越南3-2-20

TEL 082-554-7978 JR 081-3951

発行責任者 友景 克典

編集責任者 西村 耕平

第37回定期中央本部大会開催

中央本部は7月16、18日に福岡地本準備の下福岡アイランドシティフォーラムで開催した。中国JRバス地本からは代議員とし中原副委員長、横山書記長、米広書記次長、傍聴4名が参画した。第一小委員会(組織・財政)では米廣書記次長が、第二小委員会(業務)では中原副委員長が、全体質疑では横山書記長がそれぞれ中バスの現状、課題などについて発言した。



今大会で退任される上村委員長と記念撮影

■第一小委員会(組織・財政)
中バス地本の組織率は98%を超え昨年度以降、脱退者は発生していない。そんな中、中央本部主催の組織オルグを中バス地本友景委員長のおひざ元でもある山口分会で開催して頂いたことに感謝申し上げる。組織としての重要性や役割、今後の課題などを認識することが出来た。バス産業における運転手不足は極めて重大な課題である。今後も職場活動の充実、組織拡大に向け「指導・支援」を要請する。本年度も両バス地本合同で女性意見交換会を開催していただき感謝する。継続的な開催で問題点や議論の経過、各社の取り組みなど共有できた。今後も活動の充実・強化をお願いしたい。
財政について2019年以降離職者の増加に伴い組合員も大幅に減少した。リモートを活用するなど経費削減に取り組んできたが非常に厳しい現状にある。更に平均年齢が49歳に迫り労働組合の存続・組合活動の継続も危ぶまれる。地方本部としてもあらゆる角度から問題解決に向けて取り組む覚悟である。

■第二小委員会(安全・業務)
2024年度末に高速道路においてトラックに追突する重大事象が発生させてしまった。緊急搬送されたお客様がいたが幸い診察のみで帰られた。一歩間違えば重大事故につながった事象である。要因として、トラックは止まらない「だろう」という思い込みがあった。昨年の定期大会から「だろう作業からかもしれない作業へ」の提言を中バス地本から挙げさせて頂いたが浸透していない。継続した訴えが必要になってくる。ABC運動である「A当たり前のこと」とは基本作業の事であり再度原点回帰を含め基本動作の再徹底を労使間で協議・共有しながら重大事故防止に努めていく。
JRバス中国では現在離職がとまり少しずつ新入社員が入社しているが要員不足・労働力の確保は依然として厳しい状況である。中央本部にはバス連絡会などを開催して頂いているがより一層の理解と密な連携・情報の共有をお願いしたい。バス事業の課題改善には政治の力が必要不可欠である。参議院議員選挙の真只中ではあるが推薦候補の森屋隆議員には現場の声を国に届けて頂いている。選挙も終盤に差し掛かっているが最後の最後まで中バス地本としても組合員に選挙への参画・投票を呼びかけていく。



■全体質疑
・2025春闘について
中国JRバス地方本部の25春闘は「定期昇給の完全実施」「ベア5000円」「年間臨給5箇月」「十夏季一時金五万円の回答に對し苦しいコロナ禍を乗り越え頑張ってきた組合員に誠意ある回答と判断し妥結した。また長年の懸念事項であった「55歳以降の基本給調整率の廃止」も勝ち取る事ができた。苦しいコロナ禍から2%ずつ積み重ねてきて最後の4%を廃止することができた。要員不足のなか労使間でいかに社員が末永く働ける職場であるか議論できた結果であると考ええる。しかし老朽した車両・施設への投資など持続的な経営環境ではないのが現状である。引き続き中央本部の物心両面での支援を要請する。

・安全・安定輸送について
「重大労災ゼロ・重大事故ゼロ」及び「飲酒運転の根絶」を掲げて取り組んできた。一昨年、数年ぶりに労災が発生し気を引き締めていたにも関わらず年度終わりの3月に労災事故が発生した。また東名高速道路での追突事故も発生させてしまった。お守り手帳の活用やABC運動の周知徹底を図っていく。

美祿線鉄道代行輸送は5月22日に開かれた利用促進会議でJR西日本がバス高速輸送システム(BRT)での復旧が最適との見解をしめした。これを受け山口県知事は「ベストな選択肢を選ぶ必要がある。スピード感も含めて考えていく」と述べ7月に臨時総会を開き美祿線復旧の方向性を示すことになる。今後の在り方についてタイムリーな情報共有をお願いする。

・組織課題について
新執行部体制になり2期4年、離職者に歯止めがかからず組合員も大幅に減少した。昨年春闘から離職は止まったがこのままだと2034年には正社員と契約社員の逆転現象がおこり労働組合の存続自体が危機的状況に直面する。この状況を打開するためあらゆる角度から問題解決に向けてと取り組んでいく。中央本部のご支援を強く要請する。また中バス地本においても女性社員の組合活動に理解が浸透してきた。今後も女性参画に向けて取り組んでいく。地道な世話役活動を通じ一企業一労働組合達成に向け取り組んでいく。

9月5日(金)安芸区民文化センターにおいて

中国JRバス地方本部

第35回定期大会開催